

北本市男女共同参画に関する意識・実態調査報告書

概要版

平成 29 年 3 月 北本市

北本市では、男女共同参画社会の実現に向け、平成25年に第四次北本市男女行動計画を策定し、総合的、計画的にさまざまな取り組みを進めています。

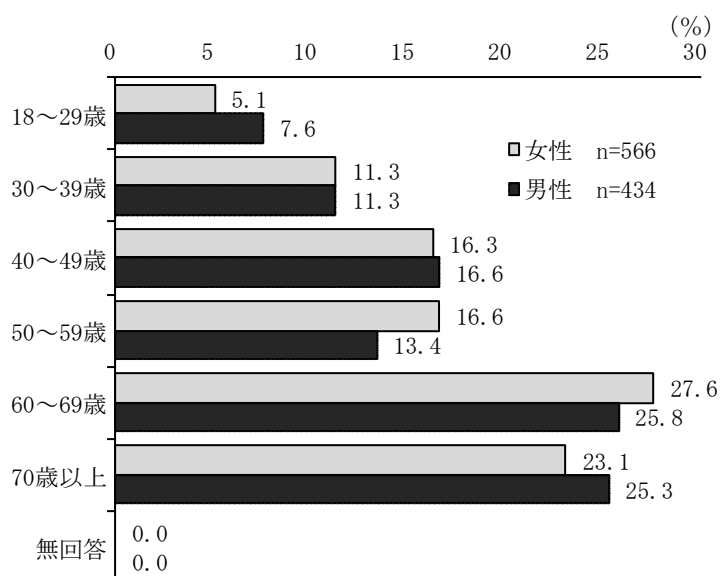
このたび、この計画を改定するため、平成28年10月に男女各1,000人の市民の方にご協力をいただき、「北本市男女共同参画に関する意識・実態調査」を実施しました。

この結果は、今後の男女共同参画を推進していくうえで、貴重な資料として活用させていただきます。

調査の概要	
調査の概要	○調査対象：北本市在住の18歳以上の市民
	○対象者数：2,000人
	○標本抽出：年齢・地域等の層化法により、住民基本台帳から無作為抽出
	○調査方法：郵送配布・郵送回収
	○調査期間：平成28年10月20日～11月4日
	○有効回収数：1,024（女性566、男性434、性別無回答24） ○回収率：51.2%（女性56.6%、男性43.4%）
調査項目	1 男女平等に関する意識について
	2 家庭生活（家事・育児・介護）について
	3 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について
	4 職業生活について
	5 配偶者等からの暴力などについて
	6 北本市の男女共同参画の取り組みについて

回答者の性別・年齢

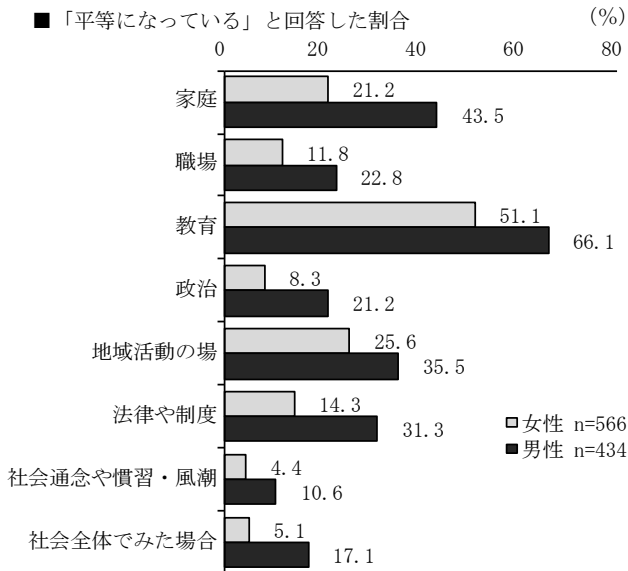
回答者の年齢については、男女ともに「60～69歳」が最も多く、次いで男女ともに「70歳以上」、次いで女性では「50～59歳」、男性では「40～49歳」となっています。



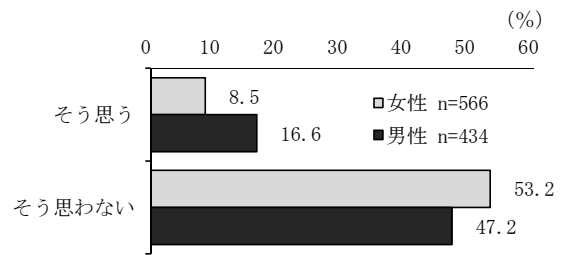
1 男女平等に関する意識について

(1) 男女平等に関する意識

社会における各分野の男女平等観については、すべての分野において男性に比べ女性の平等観が低く、特に家庭においてその差が大きくなっています。



(2) 「男は仕事、女は家庭」という考え方



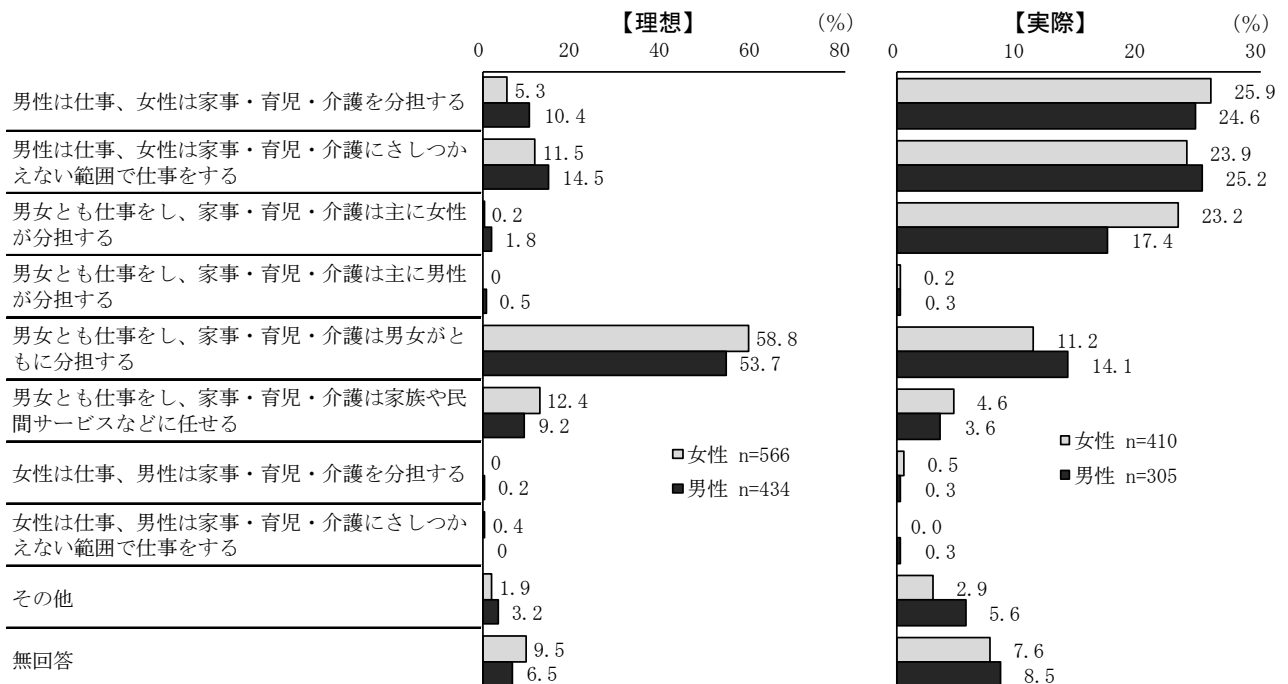
「男は仕事、女は家庭」という考え方については、男女ともに「そう思わない」割合が多くなっています。

2 家庭生活（家事・育児・介護）について

(1) 家庭における男女の役割分担【理想と実際】

家庭における男女の役割分担について、【理想】では「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は男女がともに分担する」が男女ともに最も多くなっています。

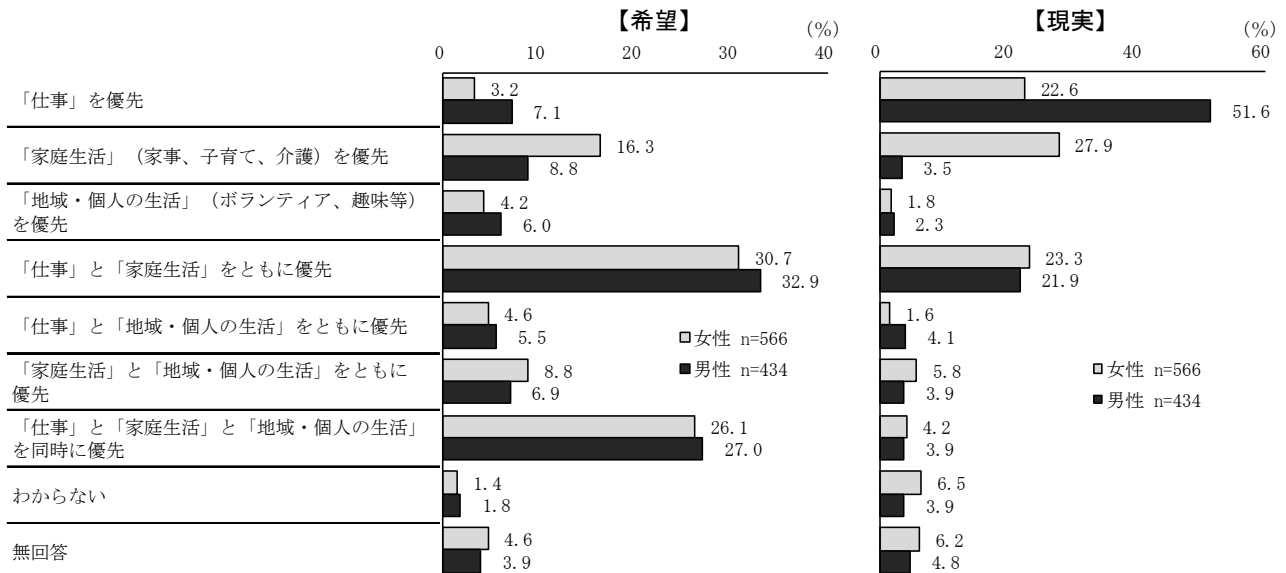
しかし、【実際】では男女ともに「男性は仕事、女性は家事・育児・介護を分担する」、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護にさしつかえない範囲で仕事をする」、「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担する」割合が多くなっています。



3 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

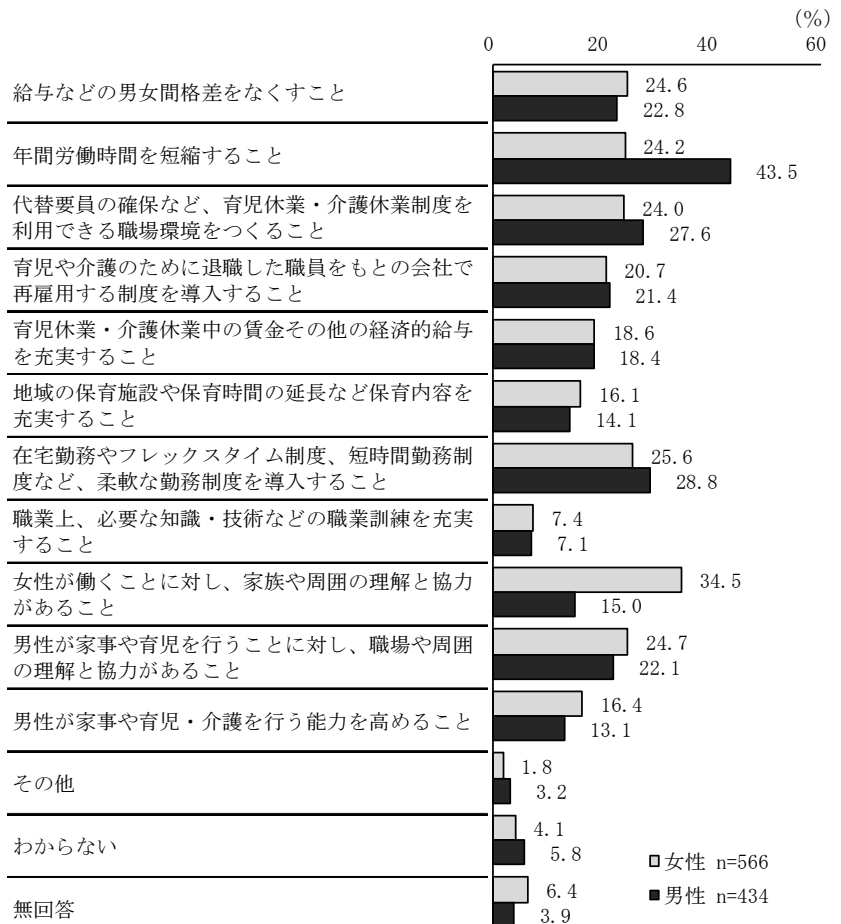
(1) 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度【希望と現実】

ワーク・ライフ・バランスについては、希望では男女ともに「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」、もしくは「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』を同時に優先」が多くなっていますが、現実には女性は仕事または家庭優先、男性は仕事優先という状況となっています。



(2) ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要な条件

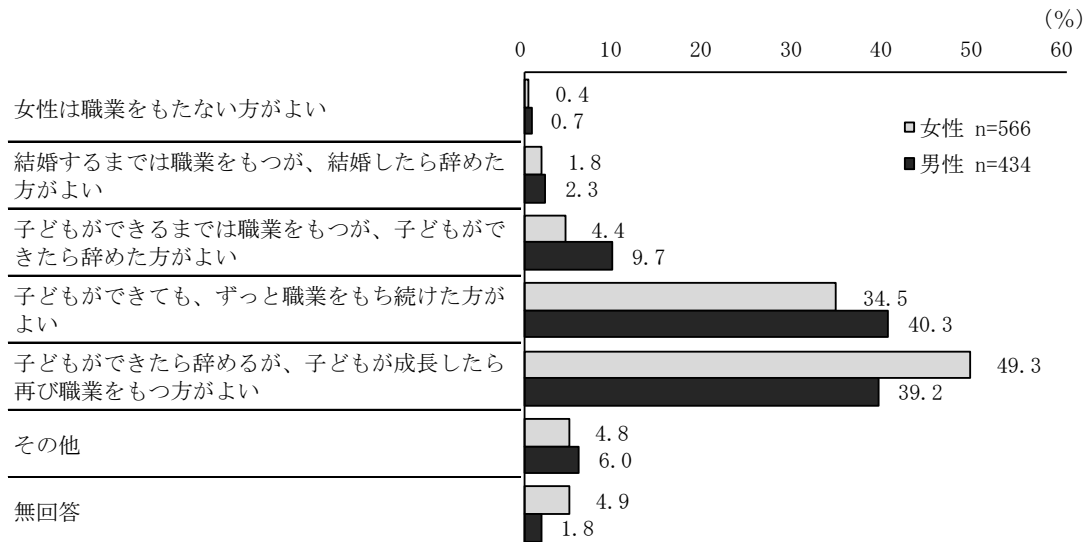
ワーク・ライフ・バランスの実現に必要な条件として、女性では「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が最も多く、男性では「年間労働時間を短縮すること」が最も多くなっています。



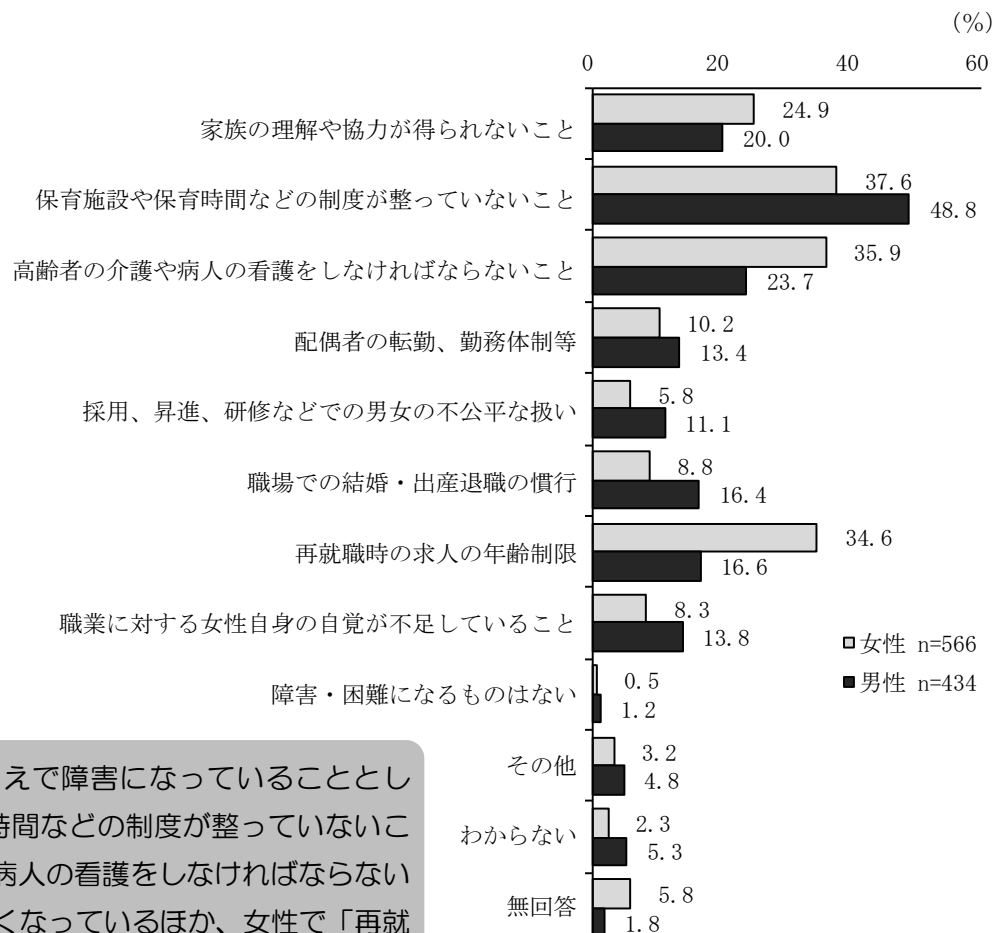
4 職業生活について

(1) 女性が職業をもつことへの考え方

女性では「子どもができたら辞めるが、子どもが成長したら再び職業をもつ方がよい」が最も多く、男性では「子どもができて、ずっと職業をもち続けた方がよい」が最も多くなっています。



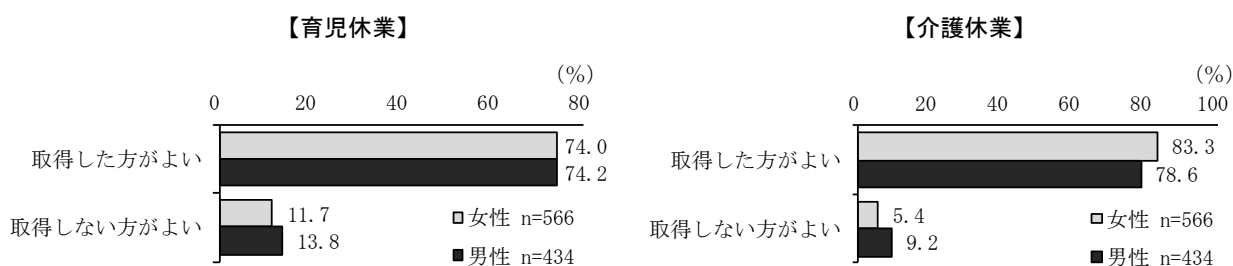
(2) 女性が働き続けるうえでの障害



女性が働き続けるうえで障害になっていることとして、「保育施設や保育時間などの制度が整っていないこと」、「高齢者の介護や病人の看護をしなければならないこと」が男女ともに多くなっているほか、女性で「再就職時の求人の年齢制限」が多くなっています。

(3) 男性の育児休業や介護休業の取得について

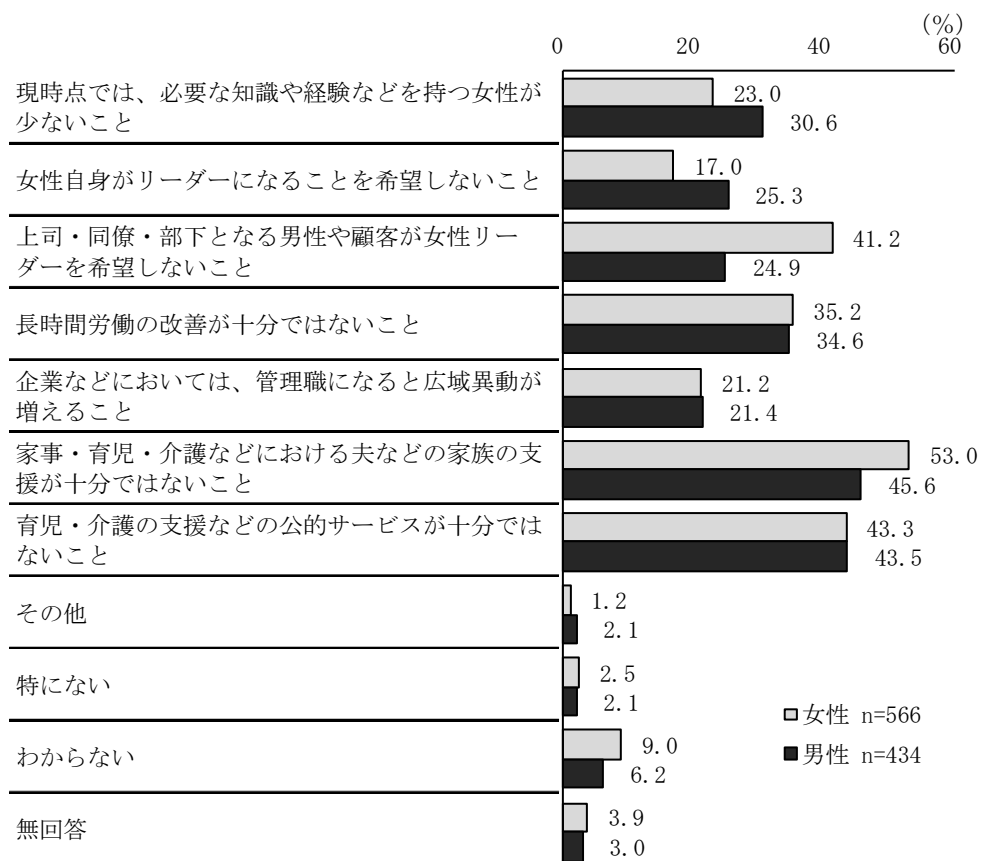
男性が育児休業、介護休業を取得することに対して、男女ともに「取得した方がよい」との回答が多くなっています。



(4) 政治・経済・地域などの各分野で女性リーダーを増やすうえでの障害

政治・経済・地域などの各分野で、女性リーダーを増やすときに障害となるものとしては、男女ともに「家事・育児・介護などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が最も多く、次いで「育児・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」となっています。

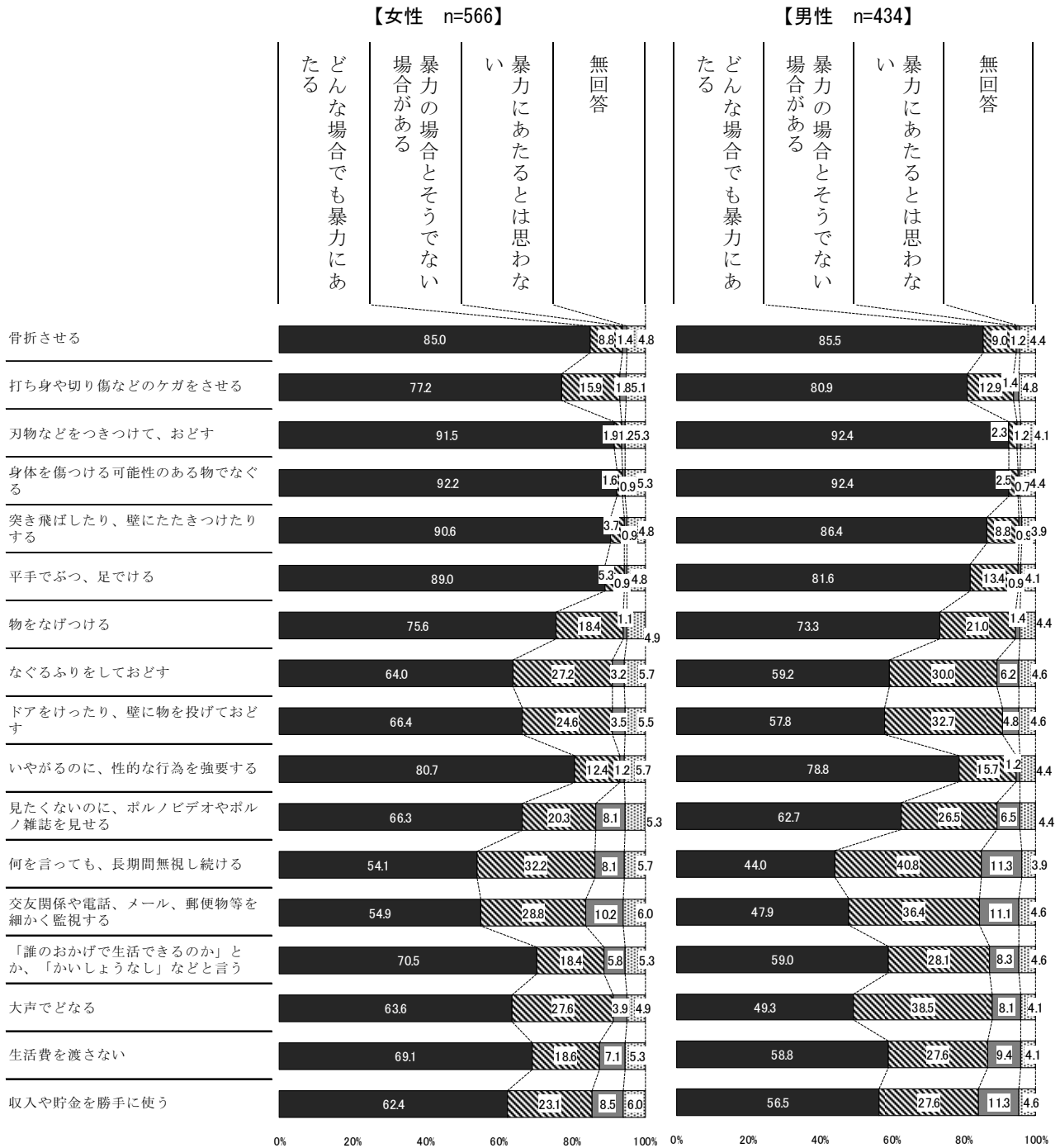
また「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が女性で多くなっています。



5 配偶者等からの暴力などについて

(1) DVについての認識

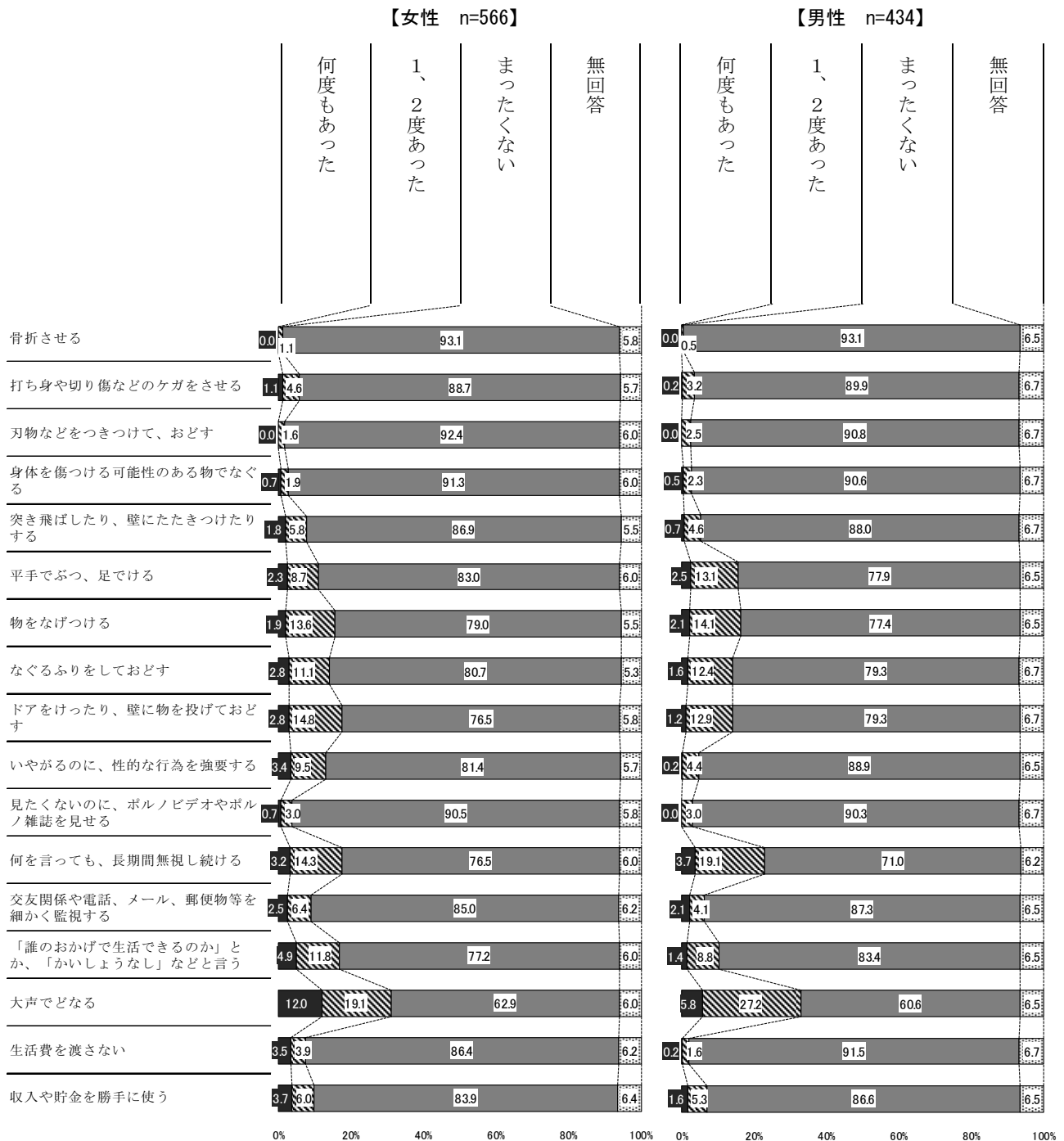
配偶者等からの暴力については、いずれの行為についても、「どんな場合でも暴力にあたる」という認識が高くなっていますが、[何を言っても、長期間無視し続ける]、[交友関係や電話、メール、郵便物等を細かく監視する]などといった精神的暴力への認識は比較的低くなっています。



(2) DVなどによる被害状況

DVなどによる被害の状況は、いずれの行為も男女ともに「何度もあった」または「1、2度あった」という回答が一定数ある状況となっています。

また、[何を言っても、長期間無視し続ける]、[大声でどなる]行為は、女性と比較して男性で被害が多くなっています。

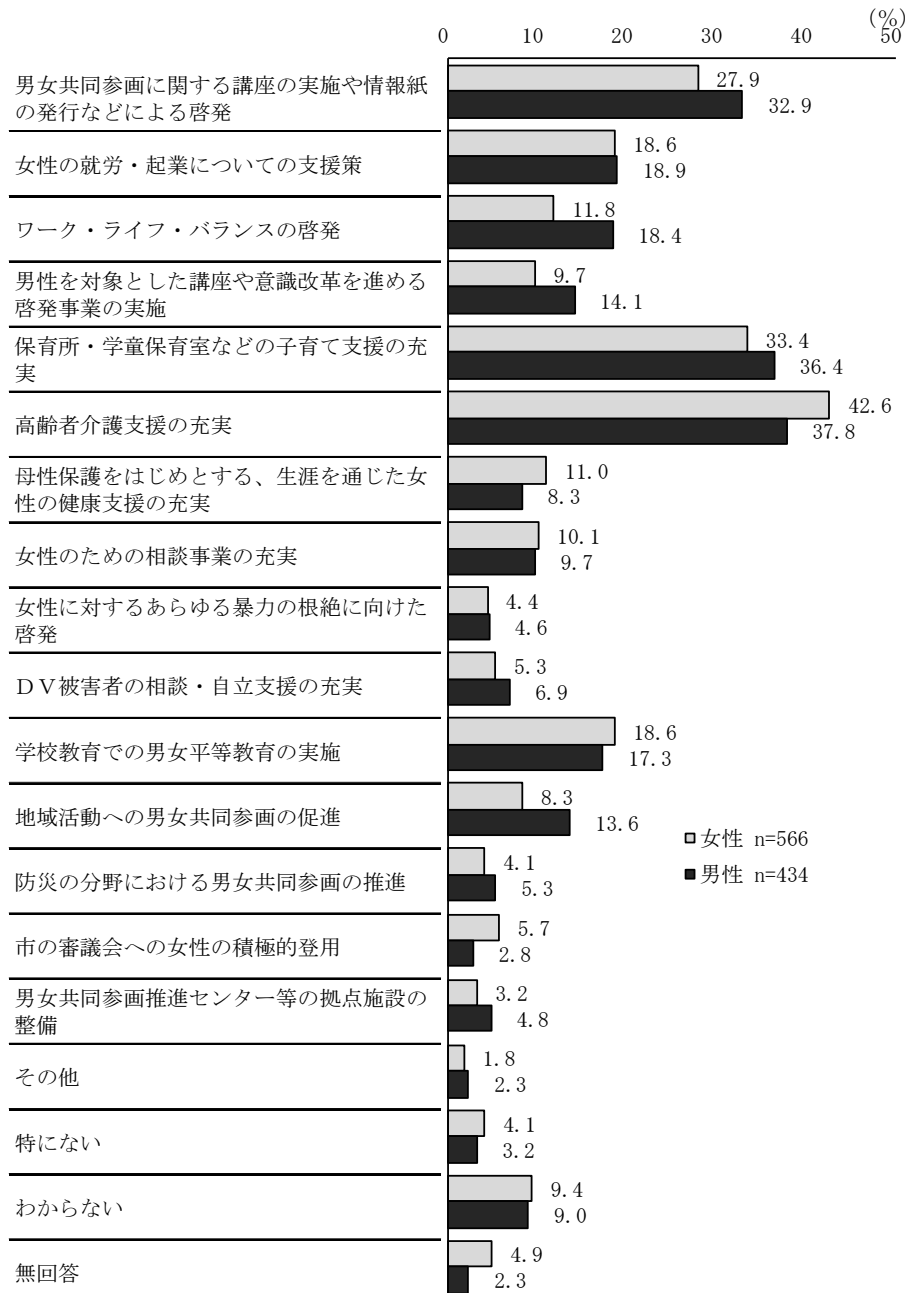


6 北本市の男女共同参画の取り組みについて

(1) 男女共同参画社会実現のために市に求めること

男女共同参画社会の実現のために市に求めることについては、男女ともに「高齢者介護支援の充実」が最も多く、次いで「保育所・学童保育室などの子育て支援の充実」、「男女共同参画に関する講座の実施や情報紙の発行などによる啓発」となっています。

また、「ワーク・ライフ・バランスの啓発」が男性で18.4%と、女性を6.6ポイント上回っています。



北本市企画財政部 企画課
〒364-8633 埼玉県北本市本町1-111
電話 (048) 591-1111 <代表>